

総合学科高校における科目選択に関する考察

一 非大都市・非進学指向の学校を事例として一

安藤 健二（日田三隈高等学校）

1. 研究のねらい

これまでに行われた総合学科高校や総合選択制高校の実証的な研究が明らかにするところでは、これらの学校の特徴の一つである自由な科目選択という理念は、進路要因（特に大学進学）に影響を受けるとともに、「系列」に代表される種々の枠付けが（場合によっては入学以前から）強く作用する中で、必ずしも実現していないというものであった。

さて、1994年に初の総合学科が設置されて以来、現在では全国に163校（2001年度）が開設されている。これらの学校の設立の経緯は様々であり、前身となる高校のタイプにもバラエティに富んでいる（表1）。一方、これまでの事例研究ではその対象校の特徴として、①所在地が大都市にあり、②卒業生の多くが上級学校への進学（特に大学進学）を指向するものであった。このようにしてみた場合、従来の研究対象となった学校は、それぞれに「先進的」な取り組み、あるいは「モデルケース」としての意義を持つことは事実ながら、他の総合学科高校とは少なからず異なった面を持っている。そこで報告者（安藤）は、従来の事例研究では対象とされなかったタイプ（非大都市・非進学指向^注）の学校を調査対象として研究を企図した。

研究の視点としては、第1に、先行研究が明らかにした点が、どの程度対象校の場合に当てはまっているかを検討する。第2に、従来の研究には見られなかった、生徒が実際に選択した科目そのものを対象データとして、分析を試みる。

表1：総合学科設置校の前身（2000年度設置済み）

	①普通	②普+専	③専門	④新設	⑤その他	計
国立	0	0	2	0	0	2
公立	35	54	32	4	1	126
私立	0	7	4	5	0	16
計	35	61	38	9	1	144
%	24.3	42.4	26.4	6.3	0.7	100.0

（注）①普通…普通科のみ ②普通+専門…普通科と専門科 ③専門…専門科のみ
④新設…新設校 ⑤その他…総合学科校（既設）と専門科校（既設）の合併

※①～③には、各科を持つ学校同士の合併を含む。

※全日制・通信制・定時制を合わせたものである。

文部科学省「高等学校教育の改革に関する推進状況（概要）」から作成

注「非進学指向」とは、生徒の大半が志望及び実績の面で大学進学を指向しているものではないという意味で、対象校のカリキュラムや指導体制が大学進学に対応していないという意味ではない。2001年度卒業生の進路（人数）は4年制大学(15)・短大(28)・専門学校(70)・就職(68)。

2. 調査の概要

(1) 対象校について

対象校（A校）は九州にある県立高校である。人口約6万の市にあり、県庁所在地からは離れている。前身は普通科・商業科・家政科の3学科からなる学校で、1997年に単一の総合学科高校（各学年定員200名）に移行した。

系列や科目選択制の概要を次に示す。

○「系列」は次の7つ。他に類型（例「コース」）はない。

①人文科学②生涯スポーツ（以下「スポーツ」）③アパレルデザイン（以下「アパレル」）④国際流通⑤国際流通⑥食品サービス（以下「食品」）⑦情報企画

○原則として科目選択の際、系列による拘束はない。ただしアパレルおよび食品に関する科目は、それぞれ3科目（10単位）をまとめて取る条件が課されており、この2系列については、事実上系列による科目選択の拘束がある。

○1年次は必修科目を中心とし、固定的な時間割とクラス編成。

○2・3年次は必修科目を除き、原則として自由な科目選択。クラス固定はLHRの1単位のみで、教科目の授業（30単位）は全てクラス解体。

(2) 調査の方法

2002年7月に2年生を対象として、質問紙調査を行った（サンプル数185名、在籍数196名）の94.3%。記名式の調査とし、各生徒の選択科目と関連づけて分析を行った。各質問とも回答を5段階の間隔尺度（最大値5－最小値1）として統計的な処理を行った。

3. 調査結果の要約と考察

(1) 系列および進路志望

基礎的なデータとして、系列と進路希望の傾向を示す（表2）。

表2：系列および進路希望

系列	人数	%	進路希望	人数	%
自然科学	28	15.14	①4年制大学	13	7.03
スポーツ	3	1.62	②短大	15	8.11
アパレル	23	12.43	③医療看護	14	7.57
国際流通	15	8.11	④専門学校	71	38.38
人文科学	42	22.70	⑤就職	52	28.11
食品	18	9.73	⑥未定・他	20	10.81
情報企画	40	21.62	計	185	100.00
未定・不明	16	8.65	（注）①②③は医療看護系の学校を除く。		
計	185	100.00	③は4年制・短大・専門学校の区別をしない。		

(2) 科目選択のパターン

2年生全在籍者（196名）の履修科目を比較照合した結果、科目の組み合わせは、177のパターンに分かれることが確認された。他のケースと比較せずに、これをもって科目選択が自由に行われているとは当然判断できない。だが「科目選択の多様さ」を示す指標になりうるのではないかな。

(3) 選択の重視項目

科目選択の際にどのような点を重視したかを見るため、各項目について平均を算出した（表3）。一見して、「友達」の低さが目立つ（2.09）。一方、「将来の仕事」は値の高さを示すものの（4.04）、他よりも漠然とした印象を与えるこの項目について「重視しない」とは答えにくいものと考えられ、単純に他の項目と比較して、より「重視している」とは判断すべきではない。

表3：科目選択に際しての重視項目

	平均	標準偏差
A興味のあるもの	3.91	0.94
B得意な科目	3.28	1.02
C長所が生かせるもの	3.25	0.98
Dやさしそうな科目	2.84	1.01
E将来の仕事に必要	4.04	0.96
F受験に必要	3.91	1.14
G資格に必要	3.55	1.16
H就職に有利	3.21	1.18
I系列に関係	3.15	1.37
J友達が選択するもの	2.09	1.00

N=185

(注)A～Jは便宜上付したのもの

(4) 特定教科非選択者群の特徴—数学科を例に

総合学科の特徴の1つは、進路志望や興味に応じて、特定の教科を集中的に履修することや、異なる教科を横断的に選択することが可能とされていることである。そこで数学を例に、特定の教科科目を選択しなかった群の特徴を考察する。

表4に数学非選択者群（数学関係科目〈4科目〉を全く選択しなかった者）と選択者群（1科目以上選択した者）とを比較したものを示す。それぞれの群の差異について統計的に有意か否かをt検定によって吟味した。また表5では数学非選択者群の系列および進路希望を示す。

その結果として、第1に両群とも学力スコア（校内偏差値）には有意な差はなかった。また学習活動の積極さについても同様に有意な差がなく、非選択者は必ずしも「勉強ができないから・嫌いだから」との理由で数学を忌避したものではない。

第2に、「重視項目」（表3に示した各項目のうち有意なもののみ記載）では、非選択者群は、選

択者群よりも、興味や長所を生かすことなどを重視する傾向がある。

第3に、進路希望別では4年制大学希望者に最も数学非選択者の割合が高く、「数学非選択を可能にする科目選択制」を積極的に利用しているといえる。ただし、これが過去の研究で示された「私大受験に特化した科目選択」であるか否かは、このデータだけでは判断できない。

表4：数学非選択者群と選択者群の比較

	数学非選択	数学選択
学力スコア	49.10	50.38
系列の所属意識	3.18	2.85
重視項目		
A興味	4.22	3.78 **
B得意	3.55	3.16 *
C長所	3.65	3.08 **
H就職	2.78	3.39 **
学習活動の積極さ	3.13	3.25
学習活動以外	3.98	3.86
科目選択の良否	3.55	3.43
N=	55	130

(注)有意水準 *: $p<0.05$ **: $p<0.01$

「学習活動以外」…学校での学習活動以外のことについての楽しさ

表5：数学非選択者群の系列および進路希望

系列	人数	占有率(%)	進路希望	人数	占有率(%)
自然科学	1	3.57	①4年制大学	7	53.85
スポーツ	2	66.67	②短大	6	40.00
アパレル	14	60.87	③医療看護	0	0.00
国際流通	0	0.00	④専門学校	29	40.85
人文科学	20	47.62	⑤就職	7	13.46
食品	7	38.89	⑥未定・他	6	30.00
情報企画	8	20.00	計	55	29.73
未定・不明	3	18.75			
計	55	29.73			

(注)「占有率」は、非数学選択者が各項目の全体に対して占める割合

(5) 科目選択の良否が「学校生活全体の楽しさ」に及ぼす影響

科目選択の良し悪しがどの程度「学校生活全体の楽しさ」に影響を及ぼすかについて、重回帰分析を用いて調べた（表6）。独立変数は他に、系列の所属意識の強さや、学校内での学習活動およびそれ以外の事柄についての積極性や楽しさである。

その結果として、科目選択の良否は、少なからず学校全体の楽しさに正の影響を与えていると見ることができる。

表6：「学校生活全体の楽しさ」についての重回帰分析

	偏回帰係数	t値
定数	-1.094 **	-3.325
系列の所属意識	0.102 *	2.414
学習活動の積極さ	0.227 **	3.146
学習活動以外	0.575 **	9.569
科目選択の良否	0.238 **	5.368
決定係数	0.543	

(注)決定係数は自由度調整済み

有意水準は *: $p<0.05$ **: $p<0.01$

「学習活動以外」…表4の注に同じ